

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
グローバル展開プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）  
評価用研究成果報告書

課題		グローバル人文学：日本文学・芸術・思想の普遍性の探求			
研究テーマ名		道元の思想圏：分析アジア哲学的アプローチ			
研究代表者	所属機関	京都大学			
	部局	文学研究科			
	役職	教授	氏名	出口康夫	
委託研究費		単位：千円			
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和1年度		
1,755	6,821	4,368	2,808		

### 1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

日本曹洞宗の開祖・道元はまた、日本を代表する「哲学者」でもある。この道元の思想を、現代哲学、特に英語圏で盛んな分析哲学との対話を通じて、現代哲学として再生し、その今日的意義を明らかにすることが本研究の目的であった。その際、本研究では、道元の思想に影響を与えた中国の禅思想を始めとする南・東アジアの様々な思想潮流や、西田幾多郎に代表される京都学派の哲学など、道元の影響を受けた近現代日本哲学からなる、道元を結節点とする思想系譜、すなわち「道元の宇宙」全体を視野に入れた研究を遂行した。また本研究は、単なる思想史研究の枠を超えて、道元の哲学に触発される形での新たな現代哲学の展開をも目指した。

これらの研究目的を達成するため、本研究では国際的・学際的な研究チームを編成した。具体的には、英語圏を代表する哲学者・論理学者・仏教学者を共同研究者に迎えると共に、国内からは哲学者のみならず論理学者や数学者も研究チームに加えた。また本研究は、研究成果の国際発信を重視し、全ての研究会を英語で実施するとともに、主たる研究成果を英語で出版すべく準備を進めてきた。2017年度には京都で、2018年度にはニューヨークで国際ワークショップを開催する一方、複数の国内ワークショップを開催し、海外研究協力者とはスカイプ等を用いた密接な共同研究を行なった。

その結果の一端は、研究代表者・出口康夫と海外協力研究者（J. Garfield, G. Priest, R. Sharf）に加え研究分担者・藤川直也も執筆に参加した英文共著 *What Can't Be Said* としてまとめられ、同書は Oxford University Press から公刊すべく、現在、出版の最終作業が進められている。加えて、研究代表者と研究分担者（藤川直也・佐金武・三谷直澄・護山真也・西郷甲矢人等）が、現在、英文の単著・共著論文の執筆を進めている。これらの論文は、国際雑誌の特集号論文として掲載された後、研究チーム内外の執筆者による論文を加えた上で、*The Cosmos of Dōgen* という英文論文集として刊行される予定である。本研究は当初の予想を超えた波及効果を生んだ。第一に、道元の自己論に触発される形で出口が *Self-as-We* という自己論を構想し、それを現在英文単著 *Self and Contradiction* として執筆中であること。また第二、道元ないしその思想圏を巡る国際研究ネットワークが英語圏や東アジア・シンガポールを超えて東南アジア大陸部にも広がったことである。